

# 武蔵国分寺跡資料館だより

Musasi Kokubunji Temple Remains Museum Newsletter

編集・発行・印刷

武蔵国分寺跡資料館  
Musasi Kokubunji Temple Remains Museum

[住所] 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10  
[電話] 042-323-4103 [FAX] 042-300-0091  
[E-mail] museum@city.kokubunji.tokyo.jp  
[HPアドレス] http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/1733/009819.html

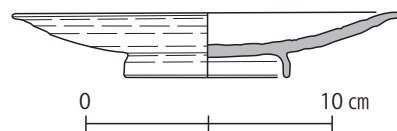
2011.7  
第7号



口径 15.7 cm  
器高 2.5 cm



拓影



実測図

## 資料紹介 No.2 武蔵国分寺跡出土の緑釉花文皿

東京都指定有形文化財

武蔵国分寺の周辺には、寺の造営・維持管理にかかわる人々が住んでいたと考えられる竪穴住居が多く見つかっています。この緑釉花文皿は、僧・尼寺の中間地点にあたる市立第四中学校内の竪穴住居から出土しました。

淡いうぐいす色の釉がかけられた高台付き小型皿の内面には、線刻で文様が施されています。中央には真言宗の本尊である大日如来の種子「**𑖀**（ヴァン）」が梵字であらわれ、これを囲むように蓮華のおしべと宝珠形の八葉の花弁が連なっています。また、縁には天上界を表す宝雲が描かれるなど、緑釉の皿としては、たいへん珍しく、秀逸なものです。

平安時代（10世紀中頃）に現在の愛知県瀬戸市付近で生産されたものが、武蔵国分寺へもたらされ、仏教儀礼に使用されたと考えられます。

特に注目されるのは、大日如来が本尊になっている点です。奈良時代の仏教は、平城京を中心とした「南都六宗」と呼ばれる「三論宗」、「成実宗」、「法相宗」、「俱舍宗」、「律宗」、「華嚴宗」の6つの宗派がありました。これら六宗は主に教義・仏典の研究や学問としての性格が強く、当時の寺院は今日の総合大学のようなもので、その宗に属する衆僧を指導する大学頭・小学頭などが置かれていました。『続日本紀』等の文献の研究によれば、各々の教義

を学ぶ学僧の集団を「衆」と呼んでいたものが、東大寺の大仏殿建立時に華嚴宗が確立して六宗になった頃に、「衆」を「宗」に改めたといわれています。後世の民衆仏教にみられるような宗派とは性格が異なり、寺も一宗一寺ではなく、広く各宗の学問を深めていました。

また、民衆の救済活動を重視した平安仏教や鎌倉仏教とは違って、基本的には律令体制下の官立寺院であることから、国家仏教を目的とし、鎮護国家の祈願所としての役割を担っていました。

しかし、平安時代になると、最澄が開宗した天台宗（台密）、同じく空海の真言宗（東密）の教えが広まり、承和4（837）年8月には真言僧が諸国購・読師（經典の購読・読経指導僧）に任じられ、元慶5（881）年9月には天台僧・真言僧が順番で諸国購・読師に選任されるようになるなど、国分寺でも密教化が進み、仏教の中でも特に祈禱を重視した密教の儀式が採用されるようになります。

大日如来の種子が刻まれたこの緑釉花文皿からは、武蔵国分寺においても10世紀代に真言宗化が進んでいたことがうかがえ、当時の仏教を知る上でも貴重な資料です。

このような仏法具が竪穴住居に持ち込まれた経緯は明らかではありませんが、住居の住人が一般の人ではなかったことが想像できます。（学芸員 増井有真）

## 資料館の教育活動の紹介

国分寺市教育委員会では、市内の子どもたちに自分たちの住む国分寺市の歴史や自然を身近に感じ、大切にしていける気持ちを持ってもらえるように、史跡周辺の校外学習事業を行っています。市内全10校の小学校の児童（3年生～6年生の一学年）の皆さんが野外体験学習として、武蔵国分寺跡などの史跡や真姿の池湧水群などを見学しています。

武蔵国分寺跡資料館も見学コースの一つで、館では実際に見てきた史跡と、展示している出土資料がより具体的に結びつくような解説を心がけています。

このほか、実際の瓦に触れる体感コーナーや、子ども用のキッズガイド「武蔵国分寺跡資料館 見学のしおり」の配布、小学生用の解説パネルを設置しています。

### 【見学・案内箇所の例】

東山道武蔵路跡、薬師堂、仁王門、おたかの道湧水園、武蔵国分寺跡資料館、真姿の池湧水群、僧寺金堂・講堂・中門跡、七重塔跡、尼寺跡、伝鎌倉街道 など



資料館の僧寺推定復元模型  
ミニチュアの人々が11人います。



資料館の瓦に触れるコーナー  
実際に持つと破片でも重いです。



見学のしおり  
(A4版・8頁)



武蔵国分寺全体の地図と武蔵国分寺の主な概要を掲載資料館ではキッズガイド「武蔵国分寺跡資料館 見学のしおり」を子どもに無料で配布しています。ご来館をお待ちしております。



僧寺北東地域 武蔵国分寺を区画する溝の一部が見られます。



七重塔跡 高さ60mの塔は、雷で焼失した後に再建されました。



僧寺金堂跡 草原にある大きな石は建物の柱を支える礎石です。



「お鷹の道」と湧水園 江戸時代ここは尾張徳川家の鷹場でした。



真姿の池湧水群 国分寺崖線と湧水のしくみを現地で学びます。

Term Exhibition

民俗資料室 期間展示



浜野栄次昆虫コレクション 

—市内のアゲハチョウ科・タテハチョウ科—

平成8（1996）年に国分寺市自然の会が市内で観察した蝶は49種類でした。そのうちアゲハチョウ科とタテハチョウ科の18種類とおなじみのモンシロチョウとモンキチョウを含む浜野栄次昆虫コレクションの展示を行います。



【開館時間】10：00～16：00  
 【期 間】2011年7月20日（水）～9月4日（日）  
 【展示場所】国分寺市民俗資料室  
 住所：国分寺市本多五丁目24-11  
 電話：042-324-7323  
 【入 場 料】無料  
 【問合せ先】ふるさと文化財課 042-300-0073  
 ※詳細は国分寺市報・市ホームページでお知らせします。

Temporary Exhibition

企画展示



武蔵国分寺跡と江戸文化人の出会い



武蔵国分寺跡は、江戸時代中ごろになると、江戸の文人が訪れ紀行文や地誌類に取り上げられました。来訪者やどのように記述されたかを紹介します。

【開館時間】9：00～17：00（入館は16：45まで）  
 【期 間】2011年10月22日（土）  
 ～2012年1月29日（日）  
 【会 場】武蔵国分寺跡資料館

Events

市内文化財めぐり



国分寺の薬師如来坐像（重要文化財）の御開帳に合わせて、史跡武蔵国分寺跡周辺を市職員の解説でめぐります。

【日 時】2010年10月10日（月・祝）  
 10：00～15：00（予定）  
 【集 合】いずみホール前（9：45）

【見学先】武蔵国分寺跡・真姿の池湧水群・武蔵国分寺跡資料館・薬師堂・東山道武蔵路跡  
 【定 員】50名  
 【募集期間】9月16日～9月30日（電話で申し込み）  
 【参加費】無料  
 【問合せ先】ふるさと文化財課 042-300-0073  
 ※詳細は国分寺市報 [9/15]・市ホームページでお知らせします。

NEWS

国分寺市

ふるさと文化財愛護ボランティア認定

平成23年度（第8回）の文化財愛護ボランティア養成講座（全10回）を5月24日から6月17日まで、当館講座室や国分寺市遺跡調査会などを会場として行いました。今年度は、6名の史跡発掘ボランティアと、9名の史跡ガイドボランティアの方を新たに認定しました。

今後は、昨年度までの養成講座で認定している先輩ボランティアに加わって、史跡武蔵国分寺跡の発掘調査実施補助や、史跡と周辺の文化財などを案内・解説（ガイド）する活動がはじまります。



臨時休館のお知らせ

2011年10月17日（火）～21日（金）は展示資料入替のため臨時休館いたします。  
 10月22日（土）から通常開館になります。

来館者数

2009年10月18日～2011年6月末日

来館者数累計 29,623名

多くのご来館ありがとうございました

月	来館者数	開館日数
4	1317	26
5	2972 (1655)	26 (3)
6	1553	26
計	5842 (1665)	78 (3)

○来館者数は、おたかの道湧水園の入園者数  
 ○来館者数（ ）内は無料公開日の入園者数  
 ○開館日数（ ）内は無料公開日の日数

【4月～6月の学校見学】〔学年〕、〔人数〕、中＝中学生、高＝高校生、大＝大学生  
 <市内>第十小学校〔小6〕(73)、第八小学校〔小6〕(59)、第一小学校〔小3〕(68)、早稲田大学附属早稲田実業学校〔中1〕(139)  
 <市外>東京学芸大学附属小金井中学校〔中2〕(160)、東京学芸大学附属国際中学校(15)、成蹊小学校〔小6〕(125)、桐朋中学校〔中1〕(268)

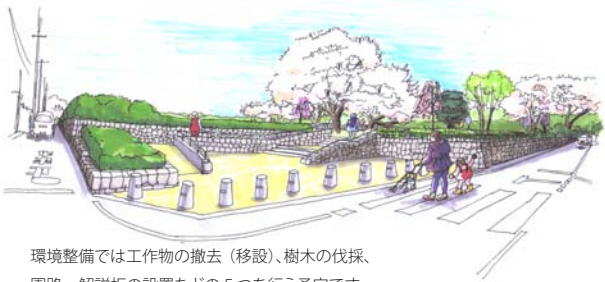
東京都文化財ウィークのお知らせ

2011年10月29日～11月6日は、東京都文化財ウィークです。

「発掘調査の窓」では、史跡整備に伴う発掘調査の成果をシリーズでお伝えしてきましたが、今回は整備計画についてご案内します。

国分寺市では郷土の歴史を語り継ぐよりどころで、豊かな自然を残す場である史跡武蔵国分寺跡を歴史公園として整備・活用するための事業を進めてきました。

平成14年には「史跡武蔵国分寺跡〔僧寺地区〕新整備基本計画」が、平成19年には「史跡武蔵国分寺跡周辺地区まちづくり計画」が定められ、平成21年には当面7年間で実現可能な整備内容を示した「史跡武蔵国分寺跡（僧寺地区）整備実施計画」が策定されました。そしてこの度、僧寺地区第一期整備工事のうち、金堂・講堂を含む中枢地区の基本設計内容がまとまり、今後は基本設計に基づいて実施設計を行い、市のシンボルにふさわしい歴史公園となるように整備を進めていきます。



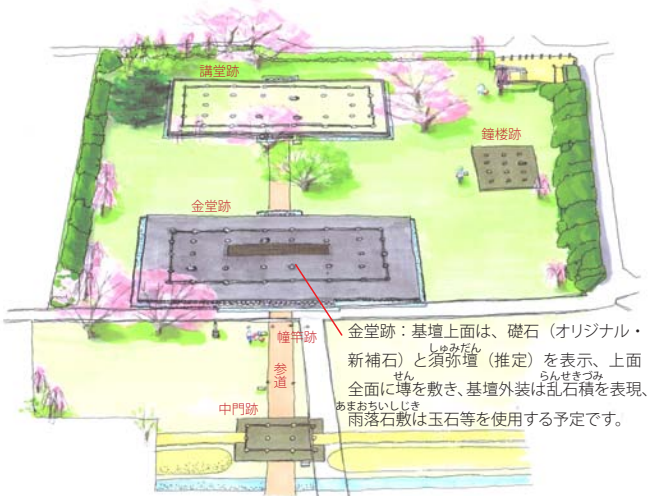
環境整備では工作物の撤去（移設）、樹木の伐採、園路・解説板の設置などの5つを行う予定です。

イメージパース:北側エントランス

(国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課『史跡武蔵国分寺跡（僧寺地区）第一期整備〔中枢地区〕基本設計報告書』平成23年5月より)

【基本設計における整備方針】

- 《遺構保存整備》
- ①遺構面の保護を前提とします。
  - ②オリジナルの礎石をみせ、往時の迫力ある基壇や建物を想像させる整備とします。
  - ③整備対象時期は、創建伽藍が完成し寺額が整っていた時期とします。
  - ④同一遺構について時代の前後関係などを混在させず、来訪者に誤解を与えないわかりやすい整備とします。
  - ⑤現状での制約条件を踏まえながら、可能な限り儀礼空間を体感できる整備に努めます。
- 《環境整備》
- ①遺構保存整備方針⑤に従い、中軸線上の連続性を意識した整備に努めます。
  - ②尼寺地区における施設整備等の考え方を踏まえ、統一感を意識した仕様とします。
  - ③地域住民の日常の憩いの場として利用され、親しみのある使いやすい整備とします。



イメージパース:中枢地区鳥瞰図

金堂跡:基壇上面は、礎石(オリジナル・新補石)と須弥壇(推定)を表示、上面全面に磚を敷き、基壇外装は乱石積を表現、あまおかししき雨落石敷は玉石等を使用する予定です。

武蔵国分寺跡資料館ご利用案内



- 交通のご案内
- 【電車】JR国分寺駅下車／徒歩約20分 JR西国分寺駅下車／徒歩約15分
  - 【バス】国分寺市循環バス「ぶんバス」日吉町ルート「泉町一丁目」下車／徒歩約8分  
国分寺駅南口より「京王バス」系統番号<寺83>・<寺85>乗車「泉町一丁目」下車／徒歩約8分

- 開館時間  
午前9時～午後5時（入館は午後4時45分まで）
- 休館日  
毎週月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）  
年末年始（12月29日から1月3日まで）  
臨時休館することがあります。
- 入園料  
資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。（入園券は史跡の駅で販売）  
一般……………100円（年間パスポート1000円）  
中学生以下……………無料
- 【入園料の減免規則があります】
- (1) 学校の教育活動で生徒（中学生を除く）、学生及び引率の教職員が入園するとき（事前（7日前まで）に減免申請書の提出が必要です。）
  - (2) 身体障害者及びその介護者が入園するとき（発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。）
  - (3) その他教育長が特別の理由があると認めるとき（事前（7日前まで）に減免申請書の提出が必要です。）
- ※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。

見る 学ぶ 訪ねる  
武蔵国分寺跡  
資料館  
Musashi Kokubunji Temple Remains Museum



モバイルホームページQRコード